

「REBOOT 古美研」(リーフレット)

令和 7 年 (2025) 6 月 10 日

東京藝術大学美術学部附属古美術研究施設(通称:古美研)は、奈良市登大路町、文化会館の隣にある。これは、東京藝術大学が開学以来の伝統とする古美術研究旅行のための宿泊研修施設です。老朽化しコロナ禍以降、宿泊機能を停止しており、施設改修を急いでいる。古美術研究旅行の復活を目指し、「古美研」改修事業へのご寄付をお願いしますリーフレット。

「古美研」の歴史と意義

古美研の歴史は 1896 年(明治 29 年)、東京美術学校時代にまで遡ります。当時の校長であった岡倉覚三(天心)は、古典から学ぶことの重要性を説き、奈良・京都の社寺に伝わる古美術作品を学生が現地で学ぶ研修をカリキュラムに組み込みました。第二次世界大戦による中断を経て、1954 年に再開。1956 年には美術学部の必須科目となり、1960 年には念願の美術学部附属奈良研究室が設置されました。

「日吉館」と「古美研」

「古美研」の近くに、かつて文化人に愛された旅館「日吉館」がありました。1914 年創業で、志賀直哉、広津和郎、土門拳など多数の文化人が宿泊し、看板の「旅舎 日吉館」の文字は歌人の会津八一が揮毫したものです。

日本画家の平山郁夫も、東京美術学校の学生だった 1949 年に初めて奈良で写生に訪れた際、日吉館に宿泊しました。当時 19 歳だった平山は、金銭的に余裕がない時には格安で泊めてもらい、「質素な旅館だったが、いろんな文人や学者が泊まったと聞いて感慨があった」と語っています。日吉館での経験は、平山の作品の出発点となり、卒業後も毎年訪れ、東京藝大の学部長や学長になってからも足を運びました。

日吉館が「古美研」の原点ともいえます。



コロナ禍以降、宿泊機能を停止しています
快適で安全な長期研修、学習と共同生活の環境を整えるために
施設の手直しを急いでいます



古美術研究施設ができる以前に利用していた
登大路の日吉館

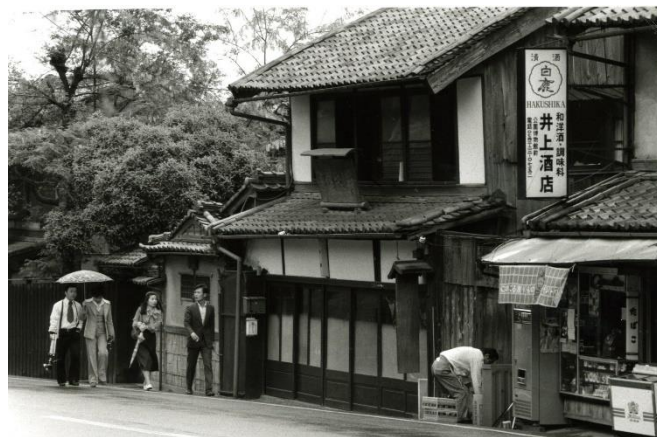


写真: 福川美佐男氏

(奈良県立図書情報館今昔写真 WEB 蔵)